

# ⑨【複数年度(2年目)】仙台駅東地区における賑わい・モビリティ・物流が共存する道路空間の社会実験(宮城県仙台市)

## 1. 実験概要、留意すべき項目

- 広幅員の道路空間を活用し、賑わい・モビリティ・物流の複数種類の交通モードが同時に混在したときの走行安全性を検証する。
- 複数種類の交通モードが同時に混在した道路空間の検討に結びつく実験となっていること。

## 2. 実験内容、実験結果

### ① 複数種類の交通モードの導入

- ⇒電動キックボード: 接触事故0件
- ⇒電動アシスト自転車: 接触事故0件
- ⇒AI自動運転車いす: 障害物検知率達成
- ⇒路上カーシェアリング: 走行快適性達成
- ⇒スマートロッカー: 満足度概ね達成

### ② 次世代モビリティ共同ポート等の設置

- ⇒利用者満足度: 概ね達成
- ⇒R3年度収入の3倍の維持管理費が必要
- ⇒AIカメラは、広幅員の道路かつ広範囲を撮影しようとする、対象物の解像度が低くなり、対象物の認識が困難



路上カーシェアリング



次世代モビリティ共同ポート

## 3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
本社会実験で複数のモビリティが輻輳することは、多様な交通手段を選択できるメリットがあると同時に、市民の危険が伴うデメリットもあると思う。これに至った経緯を教えてください。	社会実験の応募時に、単一のモビリティのみで走行実験するものは他都市で既に実施していたため、本提案では、宮城野通の広幅員を活かし、「道路ビジョン2040」に記載されている将来像のような複数のモビリティが道路空間を輻輳する状態を検証する内容にした。
本社会実験のワーキンググループは、行政や各管理者、事業者など多様なメンバーで構成されているが、議論する中で出た課題点等を教えてください。	各事業者や東北福祉大学の学生ボランティア等の協力があり実現できた。課題としては、人件費などの運営面での費用の工面である。
車道と歩道の境界部における離隔は、どのように考えているか。	本社会実験の整備時点では、各管理者からも特段指摘はなかった。ただし、今後、道路空間を円滑に利活用していくためには、配慮すべき内容だと思う。

# ⑨【複数年度(2年目)】仙台駅東地区における賑わい・モビリティ・物流が共存する道路空間の社会実験(宮城県仙台市)

## 4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
電動キックボード及び電動アシスト自転車について、車両(機体)の回収やメンテナンスに係る人員の確保(人件費)。	移動手段の一つとして、シェアリング事業を実施できる体制を検討する。

## 5. 今後のスケジュール

- R5年度  
組織体制の強化: まちづくり法人設立、道路協力団体等の認定制度の活用検討  
宮城野通の利活用: 利活用実験の実施(収益事業の検討)  
エリア内および沿道地権者の民地の利活用: 候補地の検討
- R6年度以降  
組織体制の強化: 都市再生推進法の指定  
宮城野通の利活用: 道路占用許可特例制度の活用(収益事業の実施)  
エリア内および沿道地権者の民地の利活用: 実装化

## 6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- 改正道交法に規定された「特定小型原動機付自転車」の駐車器具について、道路法施行令第16条の2の「歩行者利便増進施設等」への位置づけの検討が必要。
- 新たなモビリティの導入を検討する際、自転車利用者の走行ルールの周知、徹底が必要。
- 路上カーシェアの車室の区画方法等については、安全面を確保した上で、なるべく簡易に導入できる手法の検討が必要。
- 共同ポートの設置の際は、サイネージ、Wi-Fi、防犯カメラの設置や、各モビリティへの給電等もできるように電源の確保が必要。